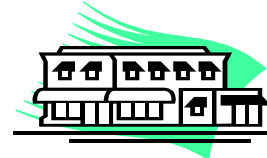


総領事館便り 4 月号



★第 5 回日系企業リーガル・コンサルテーションの実施

4 月 12 日（水）13 時～16 時に総領事館講堂において、第 5 回日系企業リーガル・コンサルテーションを開催します。インドネシアの法務に詳しいジャカルタ駐在の日本人弁護士から労働法、投資法、会社法、各種規制法など、企業に関わる問題について無料で相談を受けることができます。相談をご希望される方は、当館日系企業相談窓口（business-support@sb.mofa.go.jp）（平瀬副領事）までご連絡ください。申込み締め切りは、4 月 10 日（月）、セカンドオピニオンとしてのご利用もお待ちしております。

★第 15 回漢字カップの開催

3 月 5 日、8 月 17 日大学（UNTAG Surabaya）に於いて、第 15 回漢字カップを開催しました。漢字カップは、多くの日本語学習者が苦手としている漢字をクイズ形式で出題し、漢字の読みや書きとり能力を競う大会で、漢字に対する苦手意識を払拭し、漢字学習のモチベーションを向上させるために 2002 年より毎年開催しているものです。今年は東ジャワ州だけでなく、バリ、スマラン、ジョグジャカルタ、バンドン、ジャカルタ等の地域から、初級の部に 152 名、中級の部に 32 名（1 チーム 2 名）の参加があり、各参加者が正解すると応援団から大きな歓声があがりました。初級、中級ともに優勝はブラウイジャヤ大学（UB）の学生、準優勝はスラバヤ国立大学（UNESA）の学生でした。また、中級の部で優勝したブラウイジャヤ大学チームは、エキシビションでスラバヤ日本人学校小学部 6 年生チーム、中学部 1 年生チーム及び元留学生協会（プルサダ）東ジャワ支部とも対決しました。その他、日本語パートナーズ 4 名が書道デモンストレーションを行い、会場は大いに盛り上がりしました。加藤総領事は、開会式の挨拶の中で、「第 15 回漢字カップには東ジャワ州以外からも出場者がおり喜ばしい。東ジャワ州発祥の漢字カップが全国に知れ渡ったことを誇りに思う。出場者は長い間同大会に向けて勉強をしてきたと思うが、漢字カップはたったの半日だけ。思う存分成果を発揮していただきたい。今日は全ての参加者の健闘を祈っている。」と参加者を激励しました。ご協力いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。



総領事と優勝チーム



エキシビションの様子



日本語パートナーズによる書道デモ

★平成 28 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件署名式

日本政府は東ジャワ州内に於いて、草の根・人間の安全保障無償資金協力 4 案件を行うことを決定し、3 月 15 日に総領事館講堂において署名式が行われました。同資金協力は途上国の草の根レベルの社会開発を目的としたもので、今回の支援により対象村での母子保健が向上すること、対象県での学校での教育、衛生・学習環境が向上すること等が期待されます。署名式の挨拶で、加藤総領事は、「厳しい審査を経て選ばれた今回の 4 プロジェクトは日本国民の税金によるものである。各被供与団

体が責任をもって今回供与された資金を最大限に活用してほしい。」と述べました。プロジェクトの概要は以下のとおりです。

1. 東ジャワ州サンパン県におけるイスラム中学校施設の拡充計画

(1) 供与限度額：779,614,000 ルピア

(2) 案件概要：一階建て第1校舎一階3教室の改修、トイレ2室増築、二階新3教室の増築。備品（椅子・机、棚、ホワイトボード、ゴミ箱、教師用の椅子・机、学習ボード、本棚、書類棚）整備。

2. 東ジャワ州ンガウィ県における診療所建設及び母子保健向上計画

(1) 供与限度額：978,505,000 ルピア

(2) 案件概要：ンガウィ県ババダン村に診療所（助産師2人分の居住スペース含む）を建設、医療機材（ベッド、保育器、酸素ボンベ、吸引分娩、分娩セット等）の整備。保健ボランティアに対する研修、栄養知識に関する講演やデモンストレーション等の地域検診活動活性化プロジェクトの実施。

3. 東ジャワ州トゥバン県におけるイスラム中学校校舎改築計画

(1) 供与限度額：725,716,000 ルピア

(2) 案件概要：第一校舎の1教室の改修、トイレ2室の増築、第2校舎の2階に新4教室増築。4教室分の備品整備。

4. 東ジャワ州マラン県におけるイスラム小学校校舎建設計画

(1) 供与限度額：842,882,000 ルピア

(2) 案件概要：老朽化した第一校舎の取り壊し、新校舎1棟（4教室、多目的室、トイレ4室）建設。



被供与団体との集合写真

★国費留学生渡日前オリエンテーション

3月27日、総領事公邸に於いて国費留学生渡日前オリエンテーションが開催されました。今回参加したのは、東ジャワ州から出発する6名の国費留学生です。冒頭、加藤総領事より、「国費留学生が東ジャワ州から選出されたこと、日本に留学している留学生のうち、インドネシアからの国費留学生の割合が高いことを嬉しく思う。渡日に際し、多くの不安があると思うが、諸先輩方のアドバイスを元に安心して日本に行って欲しい。帰国後はインドネシアと日本の架け橋となって欲しい」と挨拶がありました。また、元留学生を代表して、マレタ氏及びナディア氏（ともにアイルランガ大学歯学部、広島大学留学経験有）との質疑応答の時間が設けられ、ハラルフードの入手法や日本での金曜礼拝に関する日本のイスラム事情、アルバイトの可否、余暇の過ごし方、日本でのインドネシアコミュニティ等について情報共有がありました。参加者は、本オリエンテーションを通じて多くの問題点が解決するとともに、同じ時期に渡日する学生同士のネットワーク構築によって不安が解消されたようで大変満足した様子でした。